



楠の葉新聞

記事内容

- ふるさととは？
- 希望の像
- 「アレ」の正体

ぼくのふるさととは、

延岡ですか？

授業中に、いきなりこんなことを質問してきた生徒がいた。「あなたのふるさととは延岡だと思うけど・・・」続けざまに「誰が決めたんですか？」もはや返す言葉は見つからない。そこで授業をやめて、クラス全体で「ふるさと」とは何かについて考えることにした。「ふるさとって何ですか？」たくさんの答えが返ってきた。

「ふるさととは？」

生まれた場所・育った場所・住んでいる場所
大切な場所・思い出のある場所・安心する場所
帰りたい場所・心落ち着く場所・無くなつては行けない場所・なつかしい場所

↓

「生まれた場所・育った場所だけがふるさとではない。」

子どもたちの出した答えは、「生まれ育った場所はもちろんふるさとだけど、自分がふるさとだと感じる大切な場所は全てふるさとだ」というものだった。仕事上「ふるさと」という言葉を頻繁に使う。しかし「ふるさとってどこ？」などとは考えたこともなかった。やはり子どもたちの頭の中は大人の枠をはるかに超えていく。

子どもたちの結論は、「ふるさととは大切な場所」で「いくつあってもいいし」「いつふるさとができてもいい」というものであった。国語辞典に書いてあるふるさとの定義が小さく見えた。「今自分たちにとって大切な場所は延岡」だけど「これから大切な場所ができるかも知れないし、二つ三つと増えるかも知れない。でもそれでいい」本当にそれでいいと感じた。大人がふるさとを押しつけても子どもにふるさとは残らない。「自分にとって大切な場所」と思ってもらえるような教育や働きかけが必要だと改めて感じた。この話を三年生全員で共通理解して版画とプロモーションビデオを作るために今「大切な場所」を探している。どんな大切な場所が出てくるか楽しみにしている。

希望の像

昨年の体育大会で県外からお孫さんの応援に來られていた女性の方から、グラウンドにある少女の像について質問を受けた。「いつ、何のために作られたものか？」正門を入って右側にある少女の像。「希望の像」と書かれたプレートがある。ずっと気になっていたのだが調べないままにしてしまい、せっかくながら岡富中に来られて興味を持っていただいた方に何の情報提供もできなかった。

それから新聞社、歴代の校長先生、保護者いろいろな方にお話を伺ったが有力な情報は得られないままにいた。ところが校長室で見つけた岡富中学校創立三十周年記念誌に答えを見つけたことができた。「昭和35年卒業記念品」今から58年前の卒業記念品であることが判明した。しかし、なぜ「希望の像」なのかは分からないままになっている。

この卒業記念品について情報をお持ちの方は学校までお知らせ頂けるとありがたいです。



アレって？

キャリア通信3号の記事で子どもの頃の思い出を書かせて頂いた。「アレ」

アレって何ですか？親からアレの答えを聞いてくるように言われました。家族で「アレ」は何だの話で盛り上がりました。と多くの反響があった。通信を呼んで頂いていることが実感できともうれしく思ったのと表現力が不足しているためかアレの答えが分からずに「モヤモヤ」していると話を聞いてすみませんという気持ちも交錯した。

そこでお詫びも兼ねてアレの答えを。アレは「ミ〇タードーナツ」の「フレン〇クルーラー」直接答えを聞かれた方からは「ミス〇と天〇うどんのドーナツは別物」と返事が返ってきた。私も同感。だから両方とも好きです。せっかく読んで頂いている方々にスッキリした気持ちで読んで頂けるような記事の執筆に努めていきたい思います。ぜひ忌憚のない感想やご批評をお願いします。

